

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



畑に向かう農夫(1863 年作)

エッチング

38.5×31cm

※DE L'ART M.19

バルビゾン派七星 ・ 真の農民画家

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



作品名 畑に向かう農夫(1863 年作)

種類 エッチング

サイズ 38.5×31cm

※DE L'ART M.19

略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1855 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

畑に向かい農夫の構図は1850年代前半に描かれた油彩画（シンシナティ美術館）を元にしたもので、油彩画では夫婦がほぼ横並びなのに対して銅版画では2人の間にやや距離が空けられている。2点の間には、ミレーの原画を元にした木版画《朝》（1860年出版）を位置づける事が出来るが、この距離はその名残と思われ夫婦の心理的な結びつきは、より一層強まっているように思われる。

陰影をつくるハッチング、顔の繊細な描写、そして線の強さの強弱によって平原の遠近を示す表現など、多彩なタッチで変化に富む画面を作りだしている点に、ミレーの銅版画家としての練達を見ることができ、この作品がミレーのオリジナル作品の中で一番良いとされている。